



岡崎市特殊教育推進協議会

平成3年10月30日

題字 南中3年



子どもと親の集い

運動会の感慨

常磐小学校長

稲葉 浩之

九月九日(月)、岡崎市体育館に於いて、第九回「子どもと親の集い運動会」が開催された。市内の二十二小学校、十三中学校の特殊学級児童生徒百九十八名・担当教師・多数の父兄が参加し、大変和やかでかつ熱気あふれる運動会であった。

子ども・親・教師が一体となったこのような運動会は、他にあまり例がないと思われ、誠に有意義である。

この運動会を通して、私の心に残ることがいくつかあった。その一つは、子ども達のすばらしい笑顔と目の輝きである。「線路はつづくよどこまでも」では、私も駅長の帽子をかぶり、改札口に立った。グループで長い列車を作り、力を合わせて一生懸命走って来て、先頭の子に私が切符を渡した。この時のうれしそうな笑顔は、とても印象的であった。また、全員で行った「かもつ列車、出発」では、じゃんけんをして勝った子が首にレイをかけてもらい、勝つ度にレイが増えていき、最後に多かつた子達が表彰された。顔が隠れてしまうくらいレイをかけ、得意そうにグループのところへ帰って来た子どもの目が輝いていた。

二つ目は、父兄の温かい協力である。多くの種目に子ども達と一緒に参加し、また補助役として力いっぱい立ち働いて下さった。

三つ目は担当教師の創意工夫である。「鬼たいじ」の大きな鬼の絵、「線路はつづくよどこまでも」の楽しい小道具など。

たくさんのお来賓の御臨席の中、子ども・親・教師が一体となった今年の運動会は、ほのぼのとしたものが心の中に残った。

やうじんの運動会

福岡中3年

毎年ばくのたのしみは、2つあります。1つは、玉入れです。たくさんなげました。1つしかはいりませんでした。緑チームは3番でした。たのしかったです。2つめのたのしみは、徒競争です。1年のときは3番、2年のときは5番でした。今年は1番になろうとしました。でも3番でした。たのしく走れてよかったです。「おしりてポン」もやりました。お母さ

うんどう会

んにふくらませてもらいました。

すぐわれました。パンとわれてびつくりしました。たいそうもやりました。貨物列車出発をやりまし

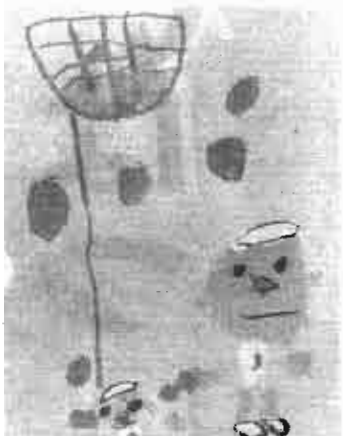
た。じゃんけんて一回かちました。

外のすずしいところで弁当を食べました。クラスのみんなやお母さんと食べました。とてもおいしかったです。

3年生なので、さいごの運動会です。来年は、仕事をがんばります。



ワーワー大声援の中の力いっばいの玉入れ。いくつ入ったかな。
六名小三年



本 部 だ よ り

第九回の運動会が九月九日におこなわれました。台風15号の接近で前日ぎりぎりまで対応に苦慮しましたが、夜が明けてみればどこ吹く風。体育館では元気を親子タイフーンが駆け回りました。今回の言は何とんでも中学生をリーダーとした応援合戦でした。同じチームとは違って、一度も合同練習できない状況でしたが、各チーム、工夫をこらして元気にやれました。こうした主体的な活動が、子どもたちに自信を与え力を伸ばしていくのでしよう。競技の方も孫が知恵をしぼって考え出したユニークなものがありました。



岡崎小六年

「代表で賞状をもらいました。とてもうれしかったです。右がぼく、左がくれた人です。」

③ かけっこA ゴールイン!



……中学生のお兄さん、お姉さんがお世話してくれました。……



大道具製作風景

第九回
平成3年
9月9日

子どもと親のつどい

プログラム

- かいかいしき
うんどう会のうた
- 1 たいそつ
 - 2 たま入れ
 - 3 かけっこ(小学生A)
 - 4 鬼たいじ
 - 5 かけっこ(小学生B)
 - 6 おしりてボン
 - 7 せんろはつつくよ
どこまでも
 - 8 徒競走(中学生)
 - 9 貨物列車、出発



◀ 6. おしりてボン



▲ 4. 鬼たいじ



楽しい昼食



応援合戦



美川中 父 兄

第九回日曜運動会、我が子は、これが最後の参加となりました。第一回は、六名のグラウンドで行われたので、ちょうど、小学校三年生の時でした。

子どもの遅々とした発達にイライラしがちですが、いつもこの運動会に参加して、前身と比べてみると、確実に成長しているのが、わかるのです。親から離れられず、半泣きで競技に参加したこともありましたが、かけっこでは、早さを競う意識は、まったくなし。

(ついつい欠点ばかりが目についてしまいます)

しかし、中学生になったとたん、先生の指導で行動を止められるようになったこと、また、「おきしろう丸、×君に負けた」と、競争意欲も芽ばえてきました。

子ども達が、いかに楽しく参加でき、力を出せるか、この運動会を励みられる先生方、いつもご苦労さまです。今後とも、長く続けられることを願っています。子どもはいつもこの日を楽しみにしていました。

子どもと親のつどい

じつどい会に参加して

三島小 教諭

興水 由美

われる子や、自発的に他の子の応援をしていっている子がいちりて、驚いたり、感動したり、すべてが、目撃せませんでした。

校内研修で、特殊学級の運動会を参観することになり、緊張してびっくりしました。しかし、体育館に入ると、元気のいい応援合戦と会場で飾られた手作りの垂幕や絵で、すべかり気分がほぐれました。

また、「貨物列車、出発」に参加しましたが、子どもたちはみな鐘林で、くっつくのない笑顔を見せてくれて、とても楽しい交流ができました。

走っている姿を見ると、普通学級のより速いのではないかと、思

たった半日でしたが、貴重な体験ができる機会に恵まれうれしく思っています。

学級紹介

ワープロの

賜物

城北中
特殊教育部

ワープロが、私たちの学級に備えられてから、年になります。ワープロの操作をいち早く覚えたのは、A君です。

「家の中で、ワープロのどきどきするのは、僕だけです。お父さんは「ワープロ打つのが早いね」といいます。お父さんは、ワープロを打つとき、いつも、僕に聞きま

す。僕は、お父さんのワープロの先生になった気分がします。この頃から、学級新聞「きかんしゃ」の記事も、ワープロの文字に変わりました。「きかんしゃ」づくりが始まると、右のワープロでは、とても間に合いません。と

きおり、先生方のワープロのお世話になります。ワープロのフル回転で、学級はますます活気づきます。

その上、ワープロは、Bさんの詩を作る大きな動機となりました。また、Cさんは、自分の進路と結びつけて、ワープロを考えるようになりました。

どの生徒も機器に対応する素晴らしい能力を持っているのです。それに、自分自身を変えていこうとする奥の深い力を秘めていることも分かってきました。

四月には、ヒカヒカの一年生、三名を迎えました。学級は一段と明るさを増しました。上気も高まりました。新入生の誰もが、ワープロに興味をもったことは言うまでもありません。先輩たちは、毎週発行する学級新聞「きかんしゃ」づくりとともに、ワープロ操作の援助も活動の一つとなったのです。新入生がワープロにスイッチを入れます。教室に、瞬、緊張感が漂います。生徒の目は、自然にキーボードに集中していきます。画面に映しだされた文字を見ては、生徒は一喜一憂します。素直に自



描画も熱心に取り組みます。

分が表出できる生徒たちばかりです。「おーい」「あーは右下だよ」「変換を押して！」「次は改行」と続く先輩の声に、「うん、分かった」「ありがとう」と感える後輩の瞳。ほのぼのとした光景があります。活動は、生徒たちの心を解いてくれます。

学級の生徒たちは、台のワープロから根気よく学ぶことや、活動することの喜びを体験しています。また、励まし合い、ときには、競い、苦しみ、共に歩む学級をつくる心が育っていると思います。私たちは、ワープロをバネに、生徒たちの活動の場を広げていきたいと思っています。六月には、二百日のワープロが届けられました。

八組随想

葵中学校担任 藤城亜希子

この学級の子たちは心の底から素直なのです。人を疑うことを知りません。時としてそれが本心にイライラしてしまうのですが、後で間違っているのは自分であることを教えられるのです。私は四月当初、特殊の副担任と聞いた時、少なからず衝撃をうけました。自分自身が学校という枠の中から追いだされたという気がし

て...

し、久しぶりスタートした新学期でしたが、まず彼らのお母さんの明るさとまじめさに驚きました。そして体を張って子供たちにつつかかさとし厳しさを子供たちを包み込むS先生。そんな中での子供たちと毎日を送っている子供たち。あちらの学校と、こちらの学校と積極的に交流をしていくうち、枠から

はみでているなんてとんでもないことと気づきました。

な が ま

ちびもやと

六ツ美南部小担任 三井 敬子

初めての特殊学級担任。学力差のあるこの一人、何をどう教えたらよいのか、暗中模索の日々が続いた。予定していた事の何分のしかでできない。昨日やったこと、今日は覚えていない。私の頭は、ハニックになりそうだった。ある時、新任教員研修会で、先輩の先生方の体験談を聞かせていただいた。もっとじっくり取り組んで取り組んでいきたいと思う。

めばよいことに気づいた。ひとりひとりの子どもをよく見て、型にはめることなく、その子どもたちにあった授業を組み立てなければいけないんだな。学習することも大切だけれども、社会に出た時、自分の生活ができるように、基本的な習慣を身につけたり、人の話を聞く素直な気持ちや、何事にも奮闘取り組むまじめな態度を育てることが、大切だと感じる。これからは、学校行事を中心にいろいろなことに意欲を持って、入って取り組んでいきたいと思う。

東海・北陸地区 特殊教育研究大会

八月九日(金)・十日(土)

大会主題「生きて働く力を育てる教育のあり方を求めて」のもと、第一日目を全体会(岡崎市民会館)、第二日目を分科会(岡崎市民会館・甲山会館・竜美学生会館・岡崎信用金庫)とし、約七、八人の参加を得た。

活動発表として、愛知県の特教育の現状、岡崎市特殊教育部の活動が報告された。

「個性を育てる」の議題で、大阪大学人間科学部教授、文学博士、梶田敬一先生の御講演をいただいた。

二日目は、七つの分科会に分かれ、学校・学級経営、言語、数量、生活、作業・進路、情操、重複・重複などの提案に基づき、協議が展開されていった。

第五分科会

梅園小

鈴木美智子

「一人ひとりの生きる力を育てる作業学習と進路指導のあり方」としての提案を、矢作北中の木河先生がされました。

他地区から参加された多くの先生が、岡崎市の進路指導委員会に興味、関心を持たれ、熱心な話し合いへと広がっていきました。

進路指導について、市全体の取り組みと各校の取り組みに関わり、「岡崎市のように進路指導委員会を設け、システムづくりをしたことで、教師も子どもも父兄も報われる」との助言をいただきました。



全体会でハンドベル演奏をする
甲山中・葵中のみなさん

映画鑑賞会

今年もツイエンターテインメントさん(田筒井興業さん)のご招待で、映画を鑑賞しました。ありがとうございました。



井田小 五年

学級スナップ

大樹寺小学校 六組

水しぶきをあげて

夏、プールの季節になると、いつもと違う子どもを発見する。教室では動きの鈍いM子とJ子。人とも肥満傾向にあり、体圧は細任とは同じ。しかし、水の中の動きは別人のように軽い。水しぶきを高く上げ、バタ足で進む距離も徐々に伸びた。

昨年は勢いよくシャワーにさえおびえて、泣いていたJ男。だんだん水に慣れ、喜々とした表情がみられるようになってきた。



ある日、カメラを構えていたら、予想以上に高く水しぶきが上がるので、現象したら棒からはみ出していた。一人ひとりの成長を残し、今年の夏が終わった。

竜南中 1年



おもしろかった

リトルマーメイド

三島小 三年

わたしはリトルマーメイドみておもしろかったことは、おうじさ

まどけっこんしたところです。101びきわんちゃんのおもしろかったところは、みんなまっくらけになったところです。それとすごくいっぱいわんちゃんがうまれたところです。さいしよは15びきだったのに101びきになってしまったところがおもしろかったです。リトルマーメイドも、かにかがともおもしろかったです。こえをとられてしまったので、こえがなくなってしまう。とつてもたのしいえがみさせられてありがとつてしまいました。

思い出のアルバム
重かった特殊教育
 夢はいつばい
 後藤 君平



「われの星 燃えておるなり
 星月夜」こんなことばに魅せられ
 ての九年間の手さぐり教育が、強
 いインパクトとなって今の自分が
 あるような気がしています。

特殊教育に関する数々の残像はあ
 るものの、輝く部分は無いとい
 べてでしょう。反省部分の方が巨
 大であつてこそ大きな期待が生ま
 れてくるものと思います。

こういったなかで、次のような
 ことがらがいつまでも心のアルバ
 ムとなっています。

子供が一人で登校できるように
 させます。

○教師の創造だけが子供を変
 える。

「小さな体の子供が大きく見え
 る。小さく見えるような教師にな
 ってはならない。手教をかけるほ
 ど教育の構造が見えてきたり、問
 題追求に励みが出てきたようです。
 人のオプスタクルが教育のオプス
 タクルになるようなことはないか
 という点と同時に普通一般教育
 を拡大させるようなロマンを持ち
 たいと思っています。特殊教育児
 を室として……」

「草の花 ひたすら咲いて
 見せにけり」

○卒業しても子供たちは学校
 でのぬくもりを持つている。
 「先生、お寿司をおごつてあげ
 るよ。」「今年のポナナスは、ト五
 万円もらえたよ。」うれしい声が聞
 こえるようになってきました。



なったり、普通学級児たちと果し
 く清掃活動ができるようになった
 りなど、担任の胸を熱くする機会
 はいくらもありましたが、それま
 でのプロセスや発想の創造に教育
 の価値感を覚えます。ひらめきた
 けてなく情熱が忘れられません。

八月二日、竜南中学校において
 特殊教育部実技講習会が行なわれ
 ました。竹内先生を招いて、特殊
 教育に携わる先生、四十名ほどが
 参加しました。「特殊教育は治療
 教育ではない。子供たちの持つ障
 害をふまえてどう育てるかである。
 普通の子供を基準にしてはいけな
 い」という竹内先生の言葉にハッ
 としました。たくさん先生の持
 ち寄った生徒の絵を見ながら相や
 かな雰囲気の中で勉強をさせて頂
 いたことを大変感謝しております。
 (岩津中 東畑美穂子)

実技講習会 研修 教育研究集会

第四十一次教育研究会に参加
 し、たくさんのことを勉強させて
 いただきました。
 毎週図工の時間に関わるS子は、
 調子の良い時には歌を歌いながら
 折り紙をしたり、ねん土で人や動
 物をつくりますが、時には、紙を
 やぶり捨てたり、はさみで物を切
 りきさんだり、ねん土を口に入れ
 たりします。S子といつしよに折
 り紙や工作、絵を描いたりしてき
 ましたが、私は、S子を見つめこ
 指導の中にもありましたように、
 S子に「何ができて、何ができな
 いのか。」をもっと知る必要がある
 と思いました。そして、S子のて
 きることから始め、図工的な経験
 があります。集会に参加して、私にも
 できることがある、ということが
 わかりうれしく思います。
 (山中小 吉田 信子)

